

「富富富」に関する聞き取り調査・アンケート結果について

富山県農林水産部

■需要側（県内米卸、消費者）

1. 県内米卸への聞き取り調査について

○実施時期：令和5年4月17日～5月2日

○調査の対象：県内米卸業者 6社

(1) 富富富のセールスポイントについて

①品質について

- ・1等比率に示されているとおり、品質には満足
- ・精米時の歩留まりが良い（富富富 89.3%、コシヒカリ 88.3%（R4.10-R5.3））

②食味について

- ・炊きあがった時の一粒一粒がしっかりしている状態は、視覚的にも良い。
- ・「冷めてもおいしい」は中食の用途に向く表現。
- ・コシヒカリに慣れており、甘みや粘りに物足りなさを感じる。

③農薬成分数の削減について

- ・農薬削減は時代の流れ。
- ・農薬成分数を削減した環境にやさしい米であることをもっとPRすべき。

(2) 飲食店・スーパーなどの評価

①販売先やバイヤーの評価

- ・通販、ネットの売れ行きは好調
- ・CMを展開しているので、一定の需要はある、欠品しないようにしている。
- ・県内では、価格がやや高いことから高齢の方が購入するケースが多い。県内外問わず子や孫に送るケースが多い。
- ・全体的に物価が高騰しており、高価格帯の米が敬遠される傾向。

②効果的なPR手法について

- ・富山の観光とタイアップした写真等をパッケージにした米はお土産品として好調。
- ・学校給食で子どもたちに富富富を食べてもらう取組みは中長期戦略として良い。
- ・都内では価格、知名度、いずれをとっても売りづらい。
- ・わかりやすい米の特長、あるいは、試食などを通して知ってもらうことが必要。
- ・コンビニおにぎりの取組みは全国に名前を知らせることができて良かった。

(3) 「コシヒカリ」から「富富富」切替えの課題

- ・コシヒカリより高価格帯を目指すのであれば、食味改善、バラつきをなくすことが必要。
- ・富山県産コシヒカリのファンが少なからずあり、その需要も大切にすることが必要。

(4) 「富富富」の販売量の増にあたって必要なこと

- ・学校給食は大変良い。子どもたちが食べたいと言えば、親は買う。
- ・家庭で米を炊く機会が減っているなど、コンビニおにぎりなどはビジネスチャンス。
- ・米の陳列棚がどんどん減らされる中、米消費の追い風になる取組みを期待。

(5) その他

- ・「富富富」購買促進キャンペーンについて、デジタルポイント応募は継続してほしい。
- ・富富富をもっと知ってもらうように学校給食の献立表への記載、給食時の動画など、子どもやその親など若者世代への米消費拡大を進めてほしい。

2. 消費者への聞き取り調査について（県公式LINEアンケート）

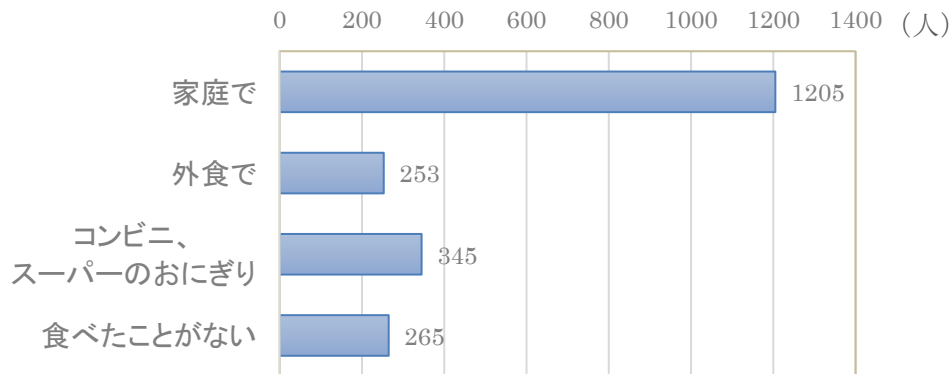
○実施時期：令和5年6月26日～7月10日

○回答数：1,659名

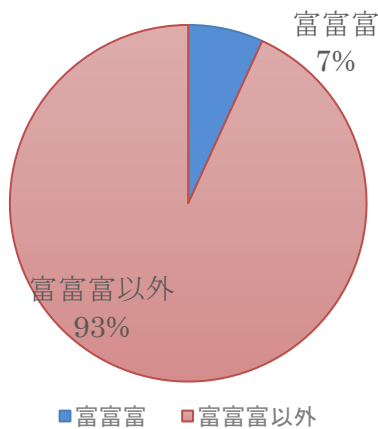


登録者数：約6,000人
県民：82%
50代以上：51.7%
30～40代：25.8%

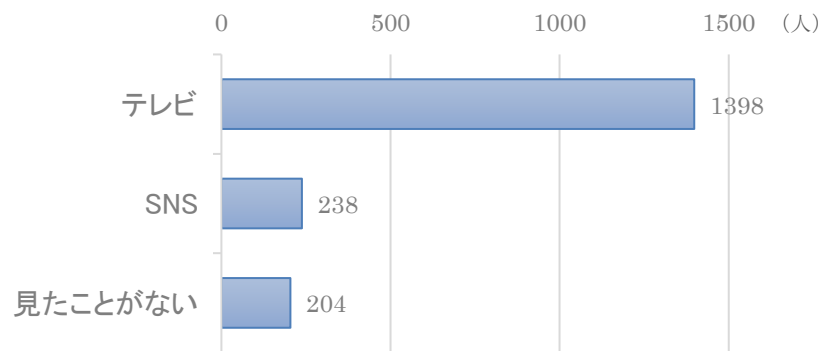
① 「富富富」を食べたことがあるか（複数回答）



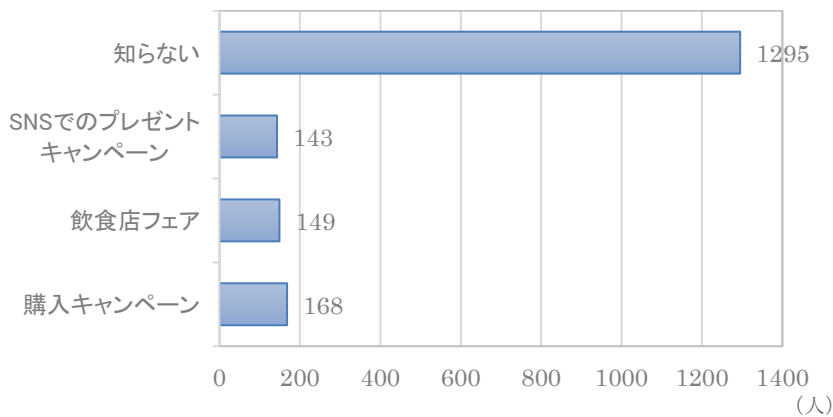
② 普段食べているお米の品種



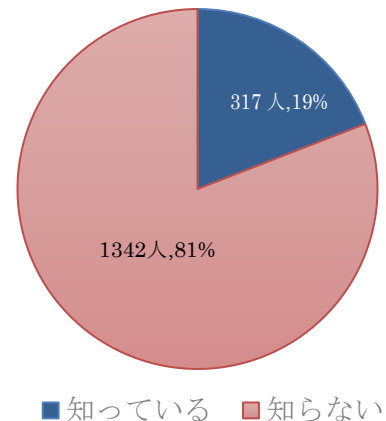
③ 「富富富」のCMの認知について（複数回答）



④ 各種キャンペーンの実施（複数回答）



⑤ 「富富富」のコンセプト「環境にやさしいお米 子どもと未来へ」について



3. 「富富富」の学校給食に関するアンケート結果について（抜粋）

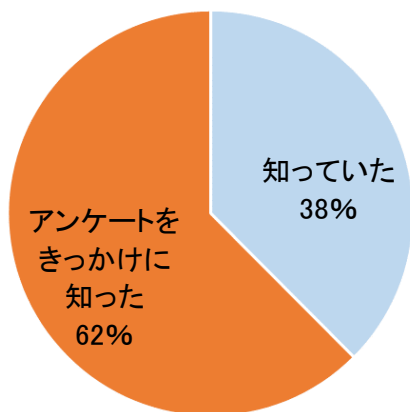
- ・実施日:令和5年6月下旬～7月中旬
- ・協力:学校給食会(各市町村教育委員会)
- ・対象学年:小学5年生
- ・実施学校



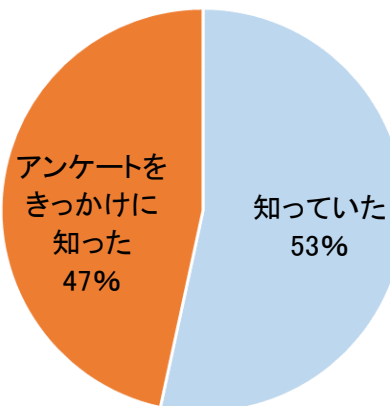
	該当市町村	アンケート実施小学校	回答数
新川地区	魚津市	清流小学校、よつば小学校	164
富山地区	富山市	堀川南小学校、岩瀬小学校 八尾小学校	164
高岡地区	射水市	東明小学校、歌の森小学校 大島小学校	198
砺波地区	南砺市	福光中部小学校、福光東部小 学校、福野小学校	201
合計			727

問1 みなさんの学校給食のごはんは、富山県で育てられた品種「富富富」です。「富富富」のご飯だと知っていますか。

(参考)R4調査



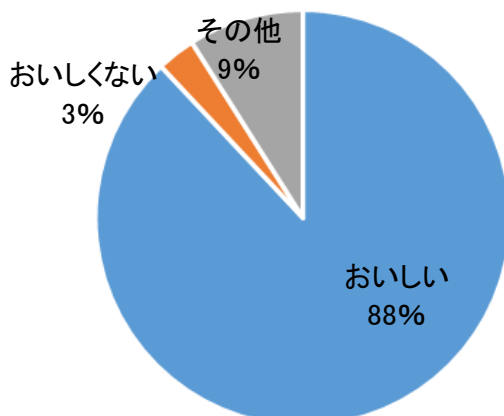
R5調査



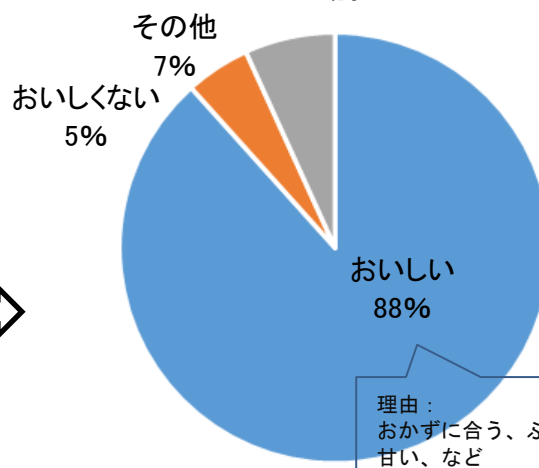
⇒アンケートをする前から給食のご飯が「富富富」と知っていた児童の割合は増加（献立表への掲載等で認知度向上）

問2 給食のご飯「富富富」について感想を教えてください。

(参考)R4調査



R5調査



理由：
おかずに合う、ふっくら、
甘い、など

⇒おいしいと回答した児童の割合は変化なし

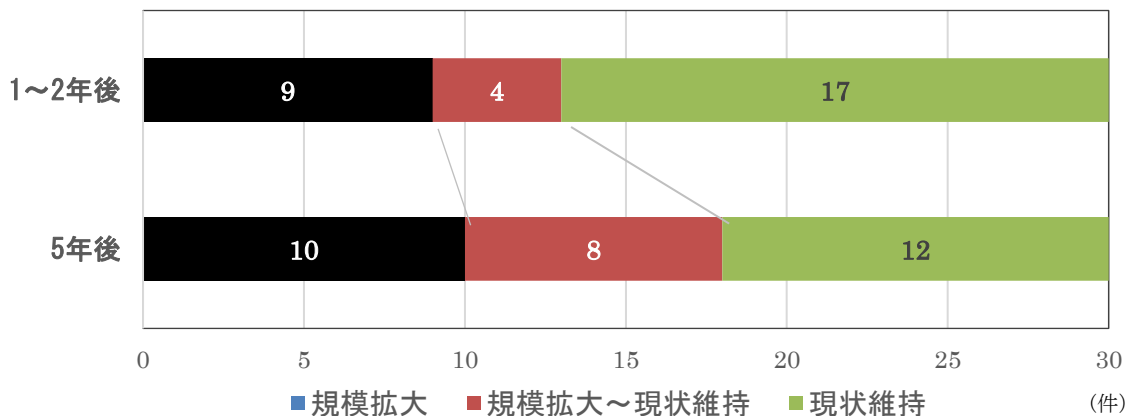
4. 「富富富」生産者への聞き取り調査について

○実施時期：令和5年4月26日～7月7日

○調査の対象：地域別、営農類型別にバランスよく選定

地域	計	経営体		
		会社法人	集落営農組織 (うち法人数)	個別経営体 (うち認農)
新川	8	4	3(3)	1(1)
富山	9	1	5(4)	3
高岡	7	3	3(2)	1(1)
砺波	6	3	1(1)	2(2)
合計	30	11	12(10)	7(4)

(1) 今後の作付動向について



○規模拡大と回答した理由（主な意見抜粋）

- ・倒伏のリスクの高いほ場を中心に切替え。コンバインへの負担もない。
- ・中長期的な視野で富山米を育てていく必要がある。

○規模拡大～現状維持と回答した理由（主な意見抜粋）

- ・今後温暖化が進み、コシヒカリで品質が低下。富富富で収益性を上げるべき。
- ・適期に田植えをできる面積は現状が限界。もう少し早い田植えが可能なら、拡大したい。

○現状維持と回答した理由（主な意見抜粋）

- ・輸出用米も可となれば、拡大したい。
- ・基肥量、田植時期など、収量増及び所得向上につながる指導を。

(2) 品質や食味等への意見、要望について

①品質について

- ・色彩選別機等を活用（5割以上）、白未熟は少ない印象だが屑米、青米の発生がやや多い。

②食味について

・肯定的な意見：

- ・あっさりした味が好きな若い人には好まれる。
- ・炊き立ては、コシヒカリも富富富も変わらないが、冷めると富富富の方が美味しい。
- ・コシヒカリよりあっさりしている、食べやすく、おかずを引き立ててくれるお米。
- ・そのままのご飯として食べるより、おにぎり等加工すると美味しい。

- ・否定的な意見：味が淡泊、粘りが足りない。

(3) 収量について

	件数	割合(%)	主な意見
コシヒカリより多収	5	17.8	マニュアル通りのきめ細かな管理を心がけている
コシヒカリと同等	9	32.1	<u>農薬・肥料コストがかからない分、所得アップになるが、収穫期の見極めが難しい。</u>
コシヒカリより低い	14	50.0	中山間で、登熟がバラつき、クズ米が多く、歩留まりが悪い。
その他	2	—	

(4) PR 手法について（主な意見）

- ・食べて知ってもらわなければならない、コンビニおにぎりは良い取組み。米の特徴としても、おにぎり、弁当等の業務用米に合う。
- ・生産者に売られていることや高温に強い点、品質の良さ等をもっと PR すべき。
- ・評価を得るには十分な量の確保が必要

(5) 地域の雰囲気

- ・JA が一生懸命に取り組んでいるので、応えたいと思う方が多い。
- ・地域の育苗組合が富富富に切り替え。地域全体で富富富に取り組む雰囲気がある。
- ・地域として捉えると、JA への働きかけ（育苗や乾燥調製等）が必要。

(6) 田植時期など

①コシヒカリの先に田植え：7 経営体

- ・富富富収穫後に飯米用コシヒカリを収穫する。
- ・中山間地、生育量の確保

②コシヒカリの後に田植え：13 経営体

- ・収穫期の長雨でも倒伏に耐える
- ・コシとの収穫作業の競合を回避

※高温に強い品種なので、早めに田植えができれば（GW 頃）作業分散しやすい

(7) 生産者登録制度について（全経営体が負担感なし）

①肯定的な意見

- ・登録制度自体は生産者のモチベーションアップにもつながっている。
- ・登録のルールがあるからこそ、施肥や防除について組合員の理解を得やすい。

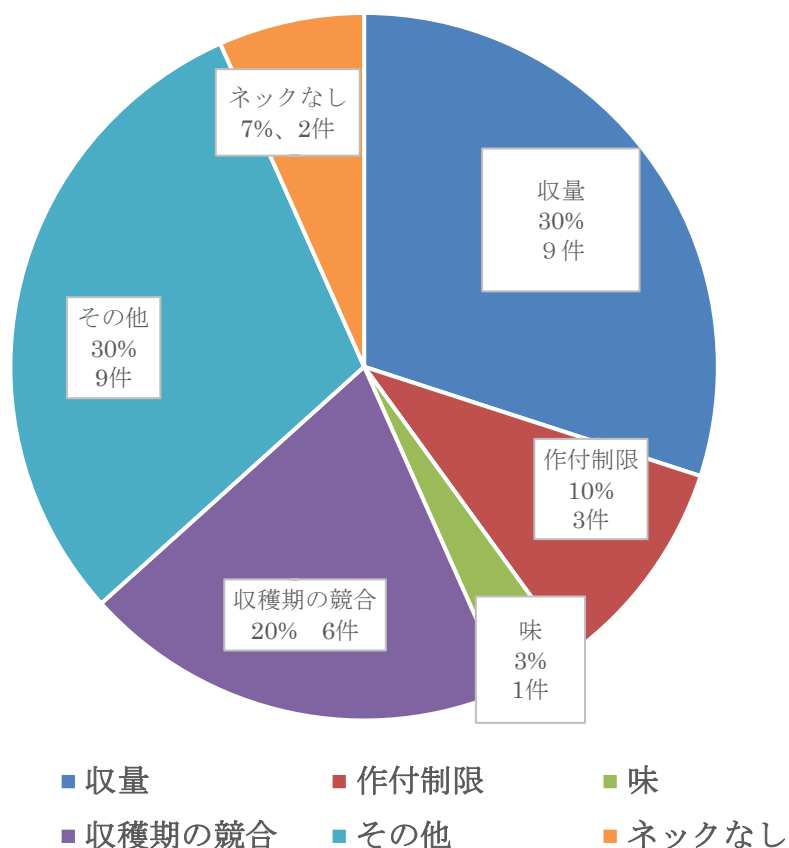
②否定的な意見

- ・生産者としての負担は無いが、取りまとめをしている JA の負担が大きいのではないかと。
- ・作付制限や縛りが無いので意味があるかは疑問

(8) 農薬成分数 12 成分以内に取り組む工夫など（特に除草対応）

- ・耕起、代かきの均平。畔塗りで水持ちをよくする。ほ場の固定化
- ・生育後半のヒエの発生に備えて成分数に余裕を持って対応できるようにしている。

(9) 富富富の生産拡大の課題について



○収量が低い (9 経営体)

- ・所得に直結するので、安定的な収量確保は重要
- ・せめてコシ並みに取りたい。

○収穫期の競合 (6 経営体)

- ・コンタミリスク
- ・収穫適期にもう少し幅があれば

○作付制限 (3 経営体)

- ・直播栽培の制限
- ・田植え時期の制限
- ・転作跡田や専用一発肥料の制限

○味 (1 経営体)

- ・コシヒカリの味に慣れている

○その他 (9 経営体)

- ・JA の施設の受け入れ、等

5. 県内JAへの聞き取り調査（「富富富」の生産拡大について）

○実施時期：令和5年7月、10月（2回実施）

○調査の対象：県内全14農協

○主な意見

(1) 作期幅（田植え時期）

- ・経営体当りの作付面積が拡大する中で、作業の分散、コシヒカリとの重複回避のためには、田植え時期を拡大してはどうか。
- ・「5月15日を中心とした田植え」を基本としつつ、JAの施設対応や経営体ごとの事情があるため、地域（個別）に対応してはどうか。

(2) 収量・品質

- ・コシヒカリと比較して、品質は良いが、収量がやや劣るため、収益性の面でメリットを感じていない生産者も見られる。
- ・地域の特性（土壌や標高等）にあった栽培技術や肥料の開発をお願いしたい。
- ・コシヒカリとの栽培管理の違い（ポイント）をしっかりと伝えることが重要。

(3) 施設対応（CE、RC）

- ・施設への受入れは検討しているが、CEの利用規模に満たないことや、コシヒカリとの受入時期の重複が課題。
- ・施設の受益エリアに合わせた地域的な切替えや、多品種の受入れを想定した施設整備が必要。
（※令和5年度より、県単事業による施設改修支援を開始）

(4) 非主食用米（輸出用米、備蓄米、加工用米等）

- ・コシヒカリから富富富へ切替えていくためには、非主食用米への対応が将来的に必要となっていくが、現時点では生産拡大のネックとなっていない。
- ・（海外への輸出は、将来的な販売先の一つとして販売・PR戦略に位置付けられていることから、）輸出用米（新市場開拓用米）は取組みを可能としても良いのではないか。

(5) 生産者登録制度

- ・登録制度自体は、徐々に事務負担も改善されており、生産者のモチベーションにもなっていることから、継続した方が良い。
- ・富富富の生産者募集期間が、翌年産の作付計画の検討や資材注文の時期と異なるため、早めて欲しい・遅くして欲しいの両方の意見があった。

(6) その他

- ・消費者だけでなく、生産者に対して、米卸からの需要や消費者からの評価が高まっていることなどをPRして欲しい。
- ・湛水直播栽培の要望はあるが、農薬12成分以内での雑草対策には不安があり、取り組める生産者は限られる。
- ・生産および販売の両面から、コシヒカリから富富富への切替えの具体的な目標やスケジュールを示して欲しい。